

3. 健常人及び視床下部一下垂体一副腎系疾患患者における CRF 静注試験

(内科2)

○芝崎 保・中原 眞理・小田桐恵美・
須田 俊宏・出村 博・鎮目 和夫

Corticotropin-releasing factor (CRF) は、1955年に Guillemin らや Schally らにより存在が確認され、1981年によく Vale らによりその化学構造が明らかにされた。我々は化学合成された羊 CRF を健常人及び視床下部一下垂体一副腎皮質系疾患を有する患者に静脈内投与し、本試験が下垂体の corticotroph cell の機能をよく反映し、診断に有用であることを明らかにした。試験は、早朝空腹時に患者に安静をとらせ負荷前15'及び直前の採血後、1.5ml の生理食塩水に溶解した100 μ g の CRF を静脈内投与し、投与後15'、30'、60'、90'、120'に採血し血漿 ACTH 及び cortisol をそれぞれの RIA で測定した。5名の健常人では、血漿 ACTH は CRF 投与後30~60'に前値の26pg/ml から平均85.9pg/ml と約3.3倍の増加が、血漿 cortisol は CRF 投与後60~90'に前値の10.7 μ g/dl と約2倍の増加が認められた。2名が投与直後より数分間持続する四肢末端や口唇の軽い冷感を訴えたが、血圧や脈拍に有意な変化は認められなかった。また、他の下垂体前葉ホルモンや血糖値にも変化はなかった。視床下部一下垂体一副腎皮質疾患患者への CRF 静脈内投与では、4名の ACTH 単独欠損症及び2名の Sheehan 症候群患者の血漿 ACTH の前値は3pg/ml 以下と著しく低値で、CRF 投与後血漿 ACTH 及び cortisol の反応は全く認められなかった。Nelson 症候群患者では、血漿 ACTH の前値は1.68ng/ml と著しく高く、CRF 投与後90'に17.75ng/ml に増加し過大遅延反応を呈した。また、3例の Addison 病患者では、血漿 ACTH の前値は400~600pg/ml と高値で、CRF 投与後増加量は350~900pg/ml、増加率では2倍前後の反応を示した。7例の Cushing 病患者では、血漿 ACTH 及び cortisol の前値は健常人より高く、CRF 投与後それぞれ前値の1.5~2.3倍、1.3~1.5倍に増加し、増加率は健常人に比べると低いものの全例に反応を認めた。一方、3例の副腎腺腫による Cushing 症候群患者では、血漿 ACTH の前値は低値で、CRF 投与後血漿 ACTH 及び cortisol は全く無反応であり、Cushing 病との鑑別にも有用であることも示唆された。

4. 女性糖尿病患者の Waist size/Hip size に関する研究

(糖尿病センター)

○雨宮 禎子・河原 玲子・平田 幸正

Type II糖尿病と肥満とは密接な関係があることは周知の事実である。

Vague らは体脂肪分布を研究し、男性の多くは頸項部、肩や腹部に adiposity がおこる上半身肥満を呈し、一方女性の多くは殿部や大腿部に adiposity がおこる下半身肥満を呈しやすいことを示したが、糖尿病女性には上半身肥満が多いことを述べた。

最近 Kissebah らは白人女性では waist size と Hip size の比率(以下 W/H と略す)が高い、すなわち上半身肥満女性に糖尿病の発生頻度が高いことを示し、この比率が糖尿病の重要な prognostic marker となることを報告している。そこで我々は日本人でも W/H が糖尿病の prognostic marker として適用可能かどうかを男女両性別に正常人と比較検討した。

対象および方法は、当センター通院中の糖尿病患者で男性160名、女性117名、健康人男性67名、女性89名、計435名の waist と Hip size を測定し肥満度との関係を検討した。

結果は W/H は男性では健康人、糖尿病患者共に0.88と同程度であつた。しかし女性では健康人0.75、糖尿病患者0.83と有意に糖尿病女性が高かつた($P < 0.001$)。年代別 W/H は男性では加齢によつても健康人と糖尿病患者ともほとんど差はなかつたが、女性では健康人は加齢による W/H は徐々に増加する傾向が認められたが、糖尿病患者では若年代から既に W/H は健康人に比し高く、加齢による変化もほとんどなかつた。糖尿病患者と健康人ともに男女とも肥満度と高く相関した(各々、 $P < 0.01$)。さらに、女性では男性と異なり糖尿病患者は健康人に比べ非肥満状態でも W/H は高値を示した。

以上により、日本人糖尿病女性には健康人女性に比べ W/H は高く、年代と関係なく非肥満状態から認められた。故に W/H は糖尿病の示標の1つとして肥満とともに有用であると考えられる。

5. 低血糖防止に人工膵を使用したインスリノーマの1例

(糖尿病センター)

○三谷 直子・高山 澄子・井上 幸子・
河原 玲子・平田 幸正

(内分泌外科) 藤本 吉秀

低血糖防止のために、人工膵島を使用し血糖調整とともに、診断の一助としたインスリノーマの1症例を